商学部創立50周年記念事業
「高校出張授業」好評

▲ ヒット商品が生まれた背景を説明する神原教授

2015年度に創立50周年を迎える商学部は、記念事業の一環として、教員が高校に出向き出張授業を行っている。高校生に専門的知識を高めることへの興味・知的好奇心を喚起するとともに、学ぶ意義を理解してもらおうというもので、各高校で好評だ。

昨年12月には神原理教授が神奈川県厚木市の厚木商業高校で「商品開発」について授業を行い、日常手にするさまざまな商品のデザインやパッケージがどのような仕組みで作られているのか、具体的な事例を通して紹介した。授業を聞いた高校生35人は、コンビニでヒットしそうなユニークな商品やネーミングを考えた。

参加した矢部翔希さん（商業科2年）は「神原先生の問いに思いついたことを書いていった。ぼくたちが食べたいと思う商品を考えていくのは楽しい」と目を輝かせた。

シリーズ 商学部50周年 4

国際標準の実力者 続々と輩出したい

学部長賞

商学部は、学術やスポーツ、社会活動などで優れた成果を収めた学生をたたえる学部長賞を2003年に創設。10年には重人学部長をはじめとする教員から「皆さんは1学年約660人の模範。これを第一歩にさらなる成長を」と激励を受けた。

学部長奨励賞を新設し、目標達成まで〝もうひと頑張り〟の学生や、学部長賞の選考水準にあと一歩の学生にもエールを送っている。

2014年度の受賞者は学部長賞14人1団体、同奨励賞13人2団体。表彰式（2月3日、生田キャンパス）では、佐々木学部長から賞状を受け取った。

◇

「初めは国税専門官に興味があった。1年次の夏にベンチャー3社でインターンシップを経験し視野が広がりました」

学部長賞を受けた山賀美裕さん（会計学科4）は、学内外のビジネスコンテストで入賞を重ねてきた。会計士講座で簿記2級を取得する一方、起業プランの作成を学ぶ授業を受け、3年次からはマーケティング学科の高橋義仁ゼミへ。会計学科の学生でも受講できるマーケティング学科のゼミは複数あり、山賀さんは経営戦略がテーマの同ゼミを選んだ。就職先は大手インターネットプロバイダーで「ウェブサービスを企画したい」と意欲を燃やす。

スポーツと学業の両立に力を入れる商学部では有望選手が育っている。学部長賞にはフェンシング部の鈴木莉奈さん（マーケティング学科4）、高橋風子さん（同3）ら体育会所属の11人も選ばれた。

2人は「授業で一番興味深かったのはSWP（スポーツウェルネスプログラム）」と話す。心理学や身体の構造、栄養などを学ぶスポーツ選手向けの特別カリキュラムで、履修すると日本体育協会公認のスポーツ指導者の資格取得に必要な科目の一部が免除される。

鈴木さんの就職先は秋田市役所。自身が育ったジュニアチームを訪ねる機会が増えそうで「SWPで教わったことが役に立つと思います」。主将として部を引っ張る高橋さんは「今すぐに生かせること、卒業後に価値を持つことの両方を学べた。受賞を励みに、フェンシングで専大をもっと盛り上げたい」と決意を新たにしていた。

▲ 佐々木学部長（前列中央）と商学部長賞・同奨励賞の皆さん

商学部長賞表彰者

2014年度商学部長賞・奨励賞表彰者は次の通り（敬称略。カッコ内は学年。※は本紙の掲載号。奨励賞は代表者のみ掲載）。

◆商学部長賞◆

▽大坪盛也（3）※532号▽森田祐介（4）※532号▽山賀美裕（4）※532号▽鹿住倫世ゼミ※下記参照▽小浦和也（4）※530号▽浦谷夏未（4）※528号▽玉凱（4）※531号▽中村倫也（2）※531号▽原田駿（3）※531号▽鈴木莉奈（4）▽高橋風子（3）▽笹目隆太郎（2）▽佐藤貴充（4）※528号▽荒木琢磨（3）※528号▽田添健汰（1）※533号

◆商学部長奨励賞◆

▽鹿住倫世ゼミ（望月蕗花・3）※533号▽渡辺達朗ゼミ（坂本実咲・3）※531号▽長谷川達朗（4）▽池田雅俊（4）▽沼倉昂（3）▽伊藤尚起（3）▽浦山竜弥（3）▽村田真奈美（3）▽神戸美穂（3）▽牧野成譲（2）▽高木亜侑実（4）▽早尾武三（4）▽杉山新吾（4）▽依田穣治（3）▽伊藤芳憲（2）

中小企業懸賞論文コンクール

商学部 鹿住ゼミ 金融部門で最優秀

◀ 鹿住教授（中央）とゼミ生たち

商学部・鹿住倫世ゼミの3年次生が、中小企業に関する調査研究の成果を競う「中小企業懸賞論文」コンクール（商工総合研究所主催）の金融部門で応募17編中、最優秀の本賞に輝いた。「中小企業振興政策と地域金融の現状と課題」というテーマに、川崎商工会議所や金融機関、民間企業を訪れ取材。「創業支援」に着目し論文をまとめた。

ゼミ生は代表の山中瞬さん、柳原愛さん、市村尚紀さん、中村優衣さん、高野青空さん、鍵村仁以奈さんの6人。「川崎市の中小製造業における支援ギャップが引き起こす課題とその解決策」と副題が付けられた論文は、融資をする側、受ける側のほか、サポート役のベンチャー支援企業も調査に入れた多角的な内容だ。

同論文コンクールは今回で28回目。企業や経済団体に勤務する実務家も応募できるため、指導する鹿住教授（中小企業経営）は「現場を自由に回れるのが学生の強み。足でデータを集めれば分析に深みが出る」と助言。山中さんらは6社から話を聞き、関連する金融政策や法律も調べるなど期待に応えた。

表彰式には、山中さんが出席。主催者から「インターネットの情報に頼らず自前で調査し、新しい課題に取り組んだ」と評価を受けた。山中さんは「それぞれが役割を果たし地道に取り組んだ成果。賞状をいただき、やっと受賞を実感しました」と笑顔をみせた。

14年度社会学科 代表論文報告

◀ 渡邉さん

◀ 本間さん

◀ 大野さん

人間科学部社会学科の「2014年度代表論文報告」が1月28日に生田キャンパスで行われ、今年度の卒業論文の中で優秀と認められた渡邉祥吾さん（秋吉美都ゼミ）、本間智裕さん（大矢根淳ゼミ）、大野純輝さん（樋口博美ゼミ）の4年次生3人が要旨を発表した。

同学科の13のゼミナールを指導する教員がそれぞれ優秀論文1本を選び、問題設定や論理の展開、先行研究・参考文献の扱いなどを大学院生が審査。これから論文を書く後輩の手本となる代表論文3本を示した。

代表に選ばれた論文は▽渡辺さん「崩壊する名づけ―『きらきらネーム』に顕在化する階層の再生産―」（講評・小森田龍生さん＝博後期）▽本間さん「生活防災及び地区防災計画制度から考察する『識災』豊かな実践共同体とそこでのアイデンティティ形成～岩手県陸前高田市米崎地区でのフィールドワークを通して～」（同・大木貴統さん＝修1）▽大野さん「人々の『農地』に対する愛着の根源を探る―京都縦貫自動車道建設に伴う水田買収を例にあげて」（同・田仲聡さん＝博後期）

子どもに読みにくい名前を付ける風潮を取り上げた渡邉さんは「名前に対する好みは主観的で、価値観を分析するテーマは難しいと実感した」。

東日本大震災の被災地に足を運び、地域の防災力を高める活動や試みを追った本間さんは「現場に行くことで知見が広がった」とフィールドワークの重要性を強調した。

大野さんは、農地を手放すことになった祖父や伯父の心情を聞き取り、金銭や代替地ではまかないきれない思いを掘り下げ「元地権者が胸を張れるインフラ整備を」と締めくくった。

聞き入った約200人の中には1～3年次生も多く、永野由紀子教授は「社会学は学生の数だけテーマがある。今日の発表を参考に自分らしい論文を仕上げてほしい」と励ました。

14年度優秀論文発表会

経済学研究科

大学院経済学研究科修士課程の「2014年度優秀論文発表会」が3月14日、神田キャンパスで開催された。原田博夫経済学研究科長をはじめ教員、院生らが聴講するなか、優秀論文に選ばれた6人のうち、4人が研究の成果を報告した。

◆発表者（カッコ内は専修科目・指導教授）

▽高橋和也さん（租税政策・星野泉）▽小糸輝さん（財政学・町田俊彦）▽鈴木貴代さん（財政学・中野英夫）▽吉田雅彦さん（経済政策・遠山浩）※小林明史さん（租税政策・原田博夫）、斉藤達哉さん（国際経済論・狐崎知己）は都合により欠席。

▶ 発表する高橋さん